



我如古スナーミー

旧暦の3月3日の後日に行われ、豊年と子孫繁栄を祈願する女性の踊り。市指定無形民俗文化財。



マールアシビ(野嵩・新城)

稲の収穫を神に感謝するための奉納芸能であるムラアシビ。現在は、野嵩(子年・午年の6年周期)・新城(寅年・申年の6年周期)で行われている。



野嵩ちなひちもうい

戦時中に途絶え、平成3年に復活した野嵩ちなひちもうい(綱引き舞い)。女性たちによる華麗な舞が披露されます。

偉大な先人達

現在・未来へと語り継ぐその功績

Great ancestors

さ き ま こうえい 佐喜真興英 1893年～1925年

1893年(明治26年)、宜野湾村新城に生まれる。1908年(明治41年)に沖縄県立第一中学校を首席で卒業し、その後東京帝国大学法学部へ進学。大学卒業後、司法官補・判事として福岡や宮崎、岡山県津山の裁判所に勤務し、そのかわら、民俗・民族学の研究を行った。著作には『南

島説話』『シマの話』『女人政治考』があります。しかし、1925年(大正14年)に肺結核のため、31歳7カ月という若さで亡くなりました。死後、日本の民俗学の創始者・柳田国男は「彼の著述は、学界の睡を驚かす警笛の如きものであった。」と、若き興英の死を悼んでいます。



やまだ しんざん 山田真山 1885年～1977年

1885年(明治18年)、那覇市壺屋に生まれる。1906年(明治39年)、東京美術学校(現東京芸術大学)に学び、東京で日本画、彫刻、工芸の創作活動を行う。東京では、明治神宮聖徳記念絵画館の『琉球藩設置』など、歴史に残る大作を描き美術界で注目される。1940年(昭和15年)、沖縄に帰り沖縄戦を体験。息子たちを失う。戦後、普

天間にアトリエを構えた。全戦没者の追悼と世界平和を希う沖縄の心を一身に担い、晩年の18年間、沖縄平和祈念像の制作に全生涯(1977年没92歳)を捧げました。山田真山画伯の平和祈念像の原型は、普天間のアトリエ跡に今も大事に保管されています。



察度 1321年～1395年

宜野湾市真志喜にある湧き水「森の川」に伝わる「羽衣伝説」で語りつがれる、天女と浦添間切謝名の奥間大親の子とされています。勝連按司の娘を娶った後、屋敷から見つけた黄金で鉄塊を買い取り、農民に農具を与えたことから人望を集め、浦添按司となり、1350年に中山王となりました。その後、明との正式な交

易を行い、琉球はアジア初の中継貿易を行う国として、東南アジアの中で大きな役割を果たし、発展を遂げました。また、留学生を明へ派遣するなど、他国のものや文化を積極的に取り入れることによって、後の琉球国の基礎を作りあげました。



察度の楼閣があったと伝わる黄金宮